



- 1 新型コロナウイルス感染症対策
- 2 令和1年度
福祉サービス第三者評価結果
- 3 IT機器 (iPad) を使った
コミュニケーション
- 4 マイワールド
病棟装飾 ・ 人事異動

ひまわりガーデン武蔵村山 (2020年7月)

新型コロナウイルス感染症に対し今私たちができること

東京都立東大和療育センター
感染制御チーム 感染制御医
山下達也

日ごろより、センターの感染対策へのご理解、ご協力誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症との闘いも、はや半年が過ぎました。5月下旬に緊急事態宣言が解除され、経済活動が段階的に拡大しています。「withコロナ」という言葉がありますが、新型コロナウイルス感染症と共に日常を生きていくためには、感染に対する予防行動を当面継続していく必要があります。

日本では、3月の早い段階から、密閉、密集、密接の3つの密が重なる場を避けましょうということが言われてきました。この3つが重なる場では、ひとりの感染者から複数の方に感染させてしまうことが、日本のクラスター対策班の分析によりわかったからです。ただ、これだけでは決して万全ではありません。屋外だから大丈夫とか、人数が少ないから大丈夫というわけではないのです。

ひとつ最近の感染事例を紹介します。ある男性が買い物先の駐車場で、知人と20分程度、マスクをせずに立ち話をしたそうです。その後、知人が新型コロナウイルス検査で陽性になったことが判明し、濃厚接触者として検査を受けた男性もPCR検査で陽性が判明しました。

前号でも紹介しましたが、新型コロナウイルスは、発症の2日前、無症状の段階から感染力があるといわれています。症状がなくても「自分が感染しているかもしれない」と、常に意識して行動することが、お互いを守ることに繋がると考えられます。

外出そのものがリスクとなるわけではありません。多人数で会食をするような飛沫が飛び交う場面を避けましょう。できるだけ対面を避ける、距離を取る、食事中は会話を控え、マスクを着けてから会話を楽しむなどです。また、目や鼻や口を触る前には必ず手を洗いましょう。外出先では店頭などに置いてあるアルコール手指消毒液は積極的に使いましょう。たっぷり手にとって、指先、爪の間までよくすり込むことが大切です。一方、熱はないけど体調がいつもと違ったり、匂いや味がおかしいと感じたりしたときは外出を控えましょう。この感染症を拡げないための大事な行動です。

当センターとしましても、これまで同様、ご利用者を新型コロナウイルス感染症から守り、安心してセンターを利用していただくため、職員一丸となり感染対策を継続してまいります。厳しい暑さが続いております。感染への備えとともに、熱中症にも十分お気をつけください。喉が渴きを感じてから水分補給をするのでは、遅いことがあります。暑さを感じてから部屋の温度を調整するのでは間に合わないこともあります。こまめに水分摂取を行い、屋内でも涼しく過ごす工夫をしていきましょう。

令和1年度

福祉サービス第三者評価報告

1 評価機関名 特定非営利活動法人 NPOサービス評価機構

2 評価結果の概要

(1) 医療型障害児入所施設(旧重症心身障害児施設)長期入所

①特に良いと思う点

- ・毎日の療育活動や外出活動、センター全体および病棟ごとの行事などを実施し、利用者の生活が豊かなものになるよう支援している。
- ・利用者の高齢化も伴い、骨折予防に向けて対策チームを立ち上げ、骨折防止に積極的に取り組んでいる
- ・医療安全管理や感染予防の対策を強化して、利用者の安全を確保している。

②さらなる改善が望まれる点

- ・利用者の高齢化による日中活動についてより一層の検討が望まれる。
- ・利用者のさらなる生活の幅の拡大に向けて、ボランティア導入の拡充を期待したい。
- ・ホームページを充実して、センターの知見や取り組みを外部に積極的に発信するよう期待したい。

③センターが特に力を入れている取り組み

- ・センターの機能や専門性を活かした研修会の開催など、積極的に取り組んでいる。
- ・臨床論理検討部会を設け、意思決定支援の仕組みづくりなどに取り組んでいる。
- ・感染症制御チームの取り組みにより、感染症のアウトブレイクを防いでいる。

(2) 生活介護(主たる利用者が重症心身障害者)通所

①特に良いと思う点

- ・利用者個々の表出から、利用者の意思のくみ取りに努め、利用者の安心や充足感につなげている。
- ・多彩な療育活動を通して、利用者の笑顔を引き出し、利用者の生活の質向上に取り組んでいる。
- ・医療安全管理や感染予防の対策を強化して、利用者の安全を確保している。

②さらなる改善が望まれる点

- ・ICT機器の導入・活用により、コミュニケーションの拡大を図り、QOL向上につなげていかれることを期待する。
- ・利用者・家族(親)の高齢化に対して、事業所で実施可能な対策について検討されることを期待する。
- ・ホームページを充実して、センターの知見や取り組みを外部に積極的に発信するよう期待したい。

③センターが特に力を入れている取り組み

- ・センターの機能や専門性を活かした研修会の開催など、積極的に取り組んでいる。
- ・多職種がチームでかかわり、利用者の生活の質を高めている。
- ・家族の個別のニーズに柔軟に応え、家族のレスパイトに配慮している。

IT機器(iPad)を使ったコミュニケーション

リハビリテーション科 小林 愛

緊急事態宣言が出ている現在5月、世間では、在宅勤務、オンライン会議などで感染拡大を予防する取り組みがされています。入所利用者さんも病棟外へ出ることが難しくなり、親御さんや後見人さん、有償ボランティアさんとお会いすることも難しい状況です。リハビリテーション科でも外来リハビリテーションを中止し、専属の病棟担当を決めて入所利用者のリハビリテーションを行っています。

皆がいつもと異なる生活でちょっと暗くなりがちな今ですが、リハビリテーション科ではiPadを利用して、少しでも楽しく生活できるようにコミュニケーション支援を行っています。その様子をお伝えしたいと思います。

①グループ訓練をオリジナル曲に合わせて、体操や歌遊び、個別課題を行っています

他病棟の利用者さん同士が会うことは難しいのですが、感染対策をした上でいつものグループ訓練のように音楽を流しながら楽しい雰囲気で行っています。

②入所利用者さんが好きな職員からメッセージをもらう

入所利用者さんとは別の病棟で働く職員からメッセージ動画をもらうと…、歩行器で歩くモチベーションにつながったり、ニッコリ笑顔になったり、とても嬉しそうなお様子がみられました。また、利用者さんからのお返事のメッセージ動画を職員さんが喜んでくれる姿をみて、私たちもとても嬉しくなりました。

③利用者さんに合わせて好きな動画や音楽を流す

昔のCMやアニメソング、アイドルの歌などを流しながら運動を行っています。

近くの職員さんも“なんだっけこの曲～?”などイントロクイズになったり、思い出を話してくれたり予想以上に盛り上がることもありました。

iPad一つで色々なことができることを学ばせていただいている今日この頃です。私事ですが、友人とこのあいだオンライン飲み会(LINEアプリ利用)を行いました。実際に会えることにこしたことはないですが、顔をみながら話せるのは少しストレスを解消できるのかなと感じています。病棟の利用者さんと親御さんとのオンライン面会なども可能になるといいですね～。





思うこと

感じること

伝えたいこと

Vol. 16

「僕のマイ・ワールド」

第3病棟 生活支援科 高田貴二

今回、僕がたくさんある趣味（笑）の中から、1つを紹介したいと思います。

趣味は？と問われると今でも1番に答えたり、趣味の欄に記入したりするのが「写真・カメラ」です。カメラに興味を持ち、写真を撮影することに興味を持ったきっかけは、父親の影響でした。初めてカメラに触れたのは小学校2年生の時でした。そうです「カメラ小僧」だったのです。一眼レフというTHEカメラでした。あの重く、高価な触り心地、子供心に感動と緊張で、手が震えていたのを今でも覚えています。その後、父親から技術、知識を教してもらい、父親と写真撮影の旅にも行きました。その作品の中から、コンクールに応募したり、個展で展示をしたり、ポストカードを作成したり、夏休みの課題は写真を取り上げたり、学生の時のアルバイトも写真スタジオ、出版のカメラマンアシスタントも体験しました。



もしかしたら今とは違った人生を歩んでいたかもしれません。僕が始めた頃の一眼レフは35mmというフィルムの写真、中型カメラでした。光と影、構図、感度、シャッタースピード、絞り、レンズなど等、さらにマニアックな言葉が並びます。それらをカメラの中で操作をして、印画紙の上に作りあげていくのです。

同じ写真は二度撮影できない」と父親から教えてもらいました。その瞬間を待つ、待ち続けて、やっと想像していたシーンに出会った時の瞬間は、シャッターを押す手が震えてしまいます。写真が今と大きく違うのは、撮り直しがきかないことです。また、加工もできないことです。そうです、今はデジタルの時代。気軽にスマートフォンでも写真撮影ができます。また、いくらでもごまかしが出来て、修正ができるのです。しかも、誰にでもきれいに写真が撮影できる優れたものです。すごいですよね。何の知識もないのに写真が撮れるのですから。決して否定をしている訳ではなく、芸術も進化をし続けて行くのだと改めて感動しています。今でも、事あるごとにカメラバックにカメラを数台、レンズを数本入れて出かけます。レンズを向ける先は誰も知らない未来かもしれませんが、僕が一番好きな被写体は「夏空」です。

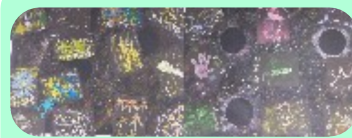
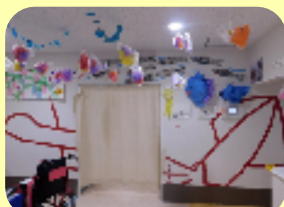
病棟装飾の紹介



4病棟では、夏の涼しさを求めて深海のイメージを壁面などの装飾で表現し、制作活動で取組んでいます。壁面以外にも、各居室それぞれ飾り付けを行い各部屋の



オリジナルに富んだ仕様になっています。



個性豊かな発想が盛りたくさん!!

↑(右)写真撮影用背景画

↑(左)オリジナル星野

→天井に描かれた夏の大きな三角形



東大和療育センターホームページ

東大和療育センター

検索

そよ風 第101号

編集 院内報そよ風編集委員会

発行日 令和2年8月15日

発行 東京都立東大和療育センター
東京都東大和市桜が丘3-44-10
Tel 042-567-0222